



→A_R_TのメルセデスSクラス、Sクラスには2種類のエアロが用意されるが、こちらはアグレッシブなスポーツラインバージョン

↓A_R_TのMLクラスはワイドでパワー感のあるフロントスポイラーが特徴。ボトムラインをボリュームアップするデザインで、カタマリ感のあるフォルムに仕上がった



→Gパワーの3シリーズは、正統派ヨーロッパンといえるシックなエアロスタイル。フロントのリップラインとリアスカートボトムラインが、サイドスカートで交差する。スピード感のあるデザインがカッコイイ



↑ファミリームードの強いGLクラスだが、フロントスポイラーとリアスカートのエアロ2点で、とてもスポーティなルックスに仕上がっている。ボンネットのクロムグリルやサイドステップのイルムもグッドデザイン

LAGER CORPORATION

TEL.048-649-1923 <http://www.lager.co.jp/>

ラガーコーポレーションのブースでは、ヨーロッパの美系派チューナーの3ブランドがブースを分けあっていた。もっとも台数が多かったのがポルシェチューナーの老舗テックアート。911ターボ、カイエン、ケイマン、ボクスターと現行モデルのフルラインメニューは圧巻。エアロデザインにも新しいテックアートのアイデンティティが感じられる。そして、メルセデスチューナーのA_R_Tは、GLクラスやGクラス、MLクラスなど、SUVのドレスアップメニューをメインに重厚感のあるデザインを見せていた。注目したいのが、昨年日本に上陸したBMWチューナーのGパワー。展示されていたのはE90型3シリーズとE63型6シリーズの2台だったが、いずれもスリル感あふれる正統派ヨーロッパン。これは注目のブランドだ



→ヨーロッパの人気チューナーズは必ず個性的なオリジナルホイールを持っているが、Gパワーのオリジナル "SILVERSTONE DIAMOND" もかなり個性的。いかにもタフそうなルックスだ

↑Gパワーの3シリーズはスバルタンなルックス。前後スポイラーにはカーボンリップが装着されている

↓6シリーズのエアロエクスエリアも3シリーズと同じ仕様。エアロデザインがタイトなので、前後バンパーに装着されたカーボンパーツが際立っている。大口径の21インチホイールも絶妙なフィットインが



→これはケイマンのフルエアロだが、フロントバンパー両端を尖らせた牙のようなデザインは、カイエンや911のエアロにも見られる共通のモチーフ。テックアートのニュートレンドというワケだ



→↑テックアートはカイエン、997型911カレラ&ターボ、ケイマン、ボクスターと現行モデルが並ぶ。フロントバンパーデザインなど、それぞれのパートを見ると共通のモチーフでデザインされていることが分かる。屋外には話題となったPPIのTTも



Garage Brilliant Cars

TEL.048-291-4311 <http://www.gbcars.jp/>

埼玉のガレージ・ブリリアント・カーズは、ルーフのボディキットやホイールをまとったカイエンとケイマンを展示。ポルシェを知り尽くしたルーフならではの造形が、各所に光る。



↑前後共に大胆な造形だが、空力の効果がかなり期待できそうなケイマンのエアロ

→開口部をさらに大きくしたカイエンのフロントバンパー。巨大なエンジン冷却しつつ空気を狙うデザインは迫力だ



DUNLOP

TEL.0120-39-2788 <http://tyre.dunlop.co.jp/>

超高速域のドライビングをサポートするスポーツMAXXをメインに展示したダンロップ。デビューしたばかりのジャガーXKRや、NKBのフルエアロをまとったカイエン・ターボなど、ハイエンドスポーツやプレミアムSUVなどにベストマッチ。懐かしのレーシングモデル、アルビーヌA210も展示。



↑XKRの走りを支えるのもスポーツMAXX。ハイパワーかつラジューアリーなクレーベに合わせたい。
→NKBのフルエアロで迫力のスタイリングとなったカイエン。こちらもスポーツMAXXがおこなわれている



↑昔からダンロップはレースで活躍していた。このA210はレーシングCR65というモデルを装着

↑今まではダンパーのみの設定だったが、ゴルフV用にスプリングがセットされた車高調整式タイプが登場。デモカーの用意ができたコンプレックスでもレポートする予定だ



KONI TEL.03-5490-2551

<http://www.fet-japan.co.jp/>

カンパニーロゴを一新したコニ。メインはやはり機械式の減衰力自動調節機構を持つFSD。乗り心地を犠牲にせずに、しっかりとした走りを実現するコニ独自の機構なのだ



A_R_T

ART tuning gmbh

マネージングディレクターのImre Arva氏とセールスマネージャーのChristian Gaymann氏。"Gのキセノン"で世界的に知名度を高めたA_R_Tが、期待通りに今回のGL用"Program X64"にもランプセットを組み込んで発表。ヘッドライトのディテールを明かすと、バックグラウンドを黒くペイントし、バイキセノンヘッドランプシステムの内容。フロントスポイラーにはLEDのデイトタイムライト、キセノンのハイビーム、そしてフォグの3灯になる。

<http://www.art-tuning.com/>

独創的なフィギュアで
クラス感を表現する

「プレミアムブランドのひとつに数え上げられるメルセデス・ベンツの中でも、プレステージ性の高いモデルにしか目を向けません。」「AクラスやBクラス、そしてCクラスについてはホイールのみを提供しています」
他のメルセデスチューナーが発信するCクラス向けプログラムには目を向けません。そこで質問をぶつけてみた。アメリカではエントリーラグジュアリーセダンとして、Cクラスに注目が集まっている。カールソン、プラバスのCの発表とほぼ同時にコンプリートプログラムをリリース。エアアルティイはUSマーケットには興味をもたないのか？
「もちろんアメリカ市場も大切だとは思いますが、日本のメルセデスオーナーの方が質が高いと思うんです。Cクラスのセリルが好調とは聞きますが、エアアルティイは独自のブランドイメージを大切にしたいのでコンパクトには守備範囲を広げるつもりはありません。ただ来年にも市場に導入されるV8の6・2リットルエンジンを搭載するAMG C 63については、エアアルティイ・モディフィケーションを提案していく予定です」
エアアルティイがテーマに掲げる「ドライブ・ユア・ドリーム」には、メルセデスの潜在能力をオーナーと一緒に引き出していきたいという同社のメッセージが込められている。

「ワールドプレミアとして、今回発表したGLクラスがエアアルティイのハイライトです。このグレード感をさらに引き立てるスペシャルコスチュームは、エアアルティイブランドのアイデンティティを強く願っています。我々が目指すのは、目が肥え、しかもオリジナリティをアピールしたいと希望するハイエンドユーザーだけです。先に発表したCLS、Sクラスベースのコンプリートカーにも当てはまりますが、クラス感のあるベースモデルにのみ、エキップメンツを紹介していることをお話ししたい。スペシャルインポートカーを見てもわかる通り、車格に合わせたステージの演出を探っている。私にとって、今回リカーゴボレーションのプレミアの演出にはとても満足している。リラックスできる雰囲気と高級感を大切にしたいステージが作られている。この演出を、ことがとても重要なパートなのです」